



# これからのカーテンのかたち

---

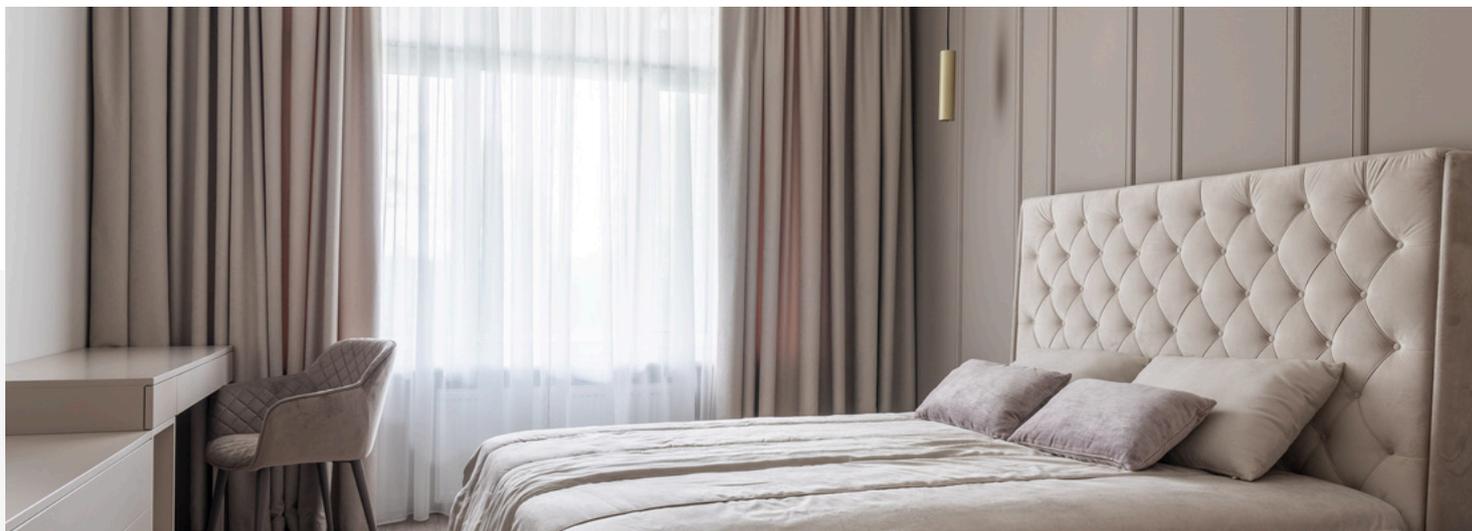
公益社団法人インテリア産業協会研究助成報告  
2024-2025

---

# 災害時に新たな力を発揮する インテリアの調査研究

---

～カーテンに着目～



## 調査・研究が必要な背景・理由

インテリアは暮らしを豊かにできるはずであるが、災害が発生すると一瞬にしてその可能性が忘れ去られる。それゆえ、カーテンだけでなくほとんどのインテリアが被災場所に置き去りにになっている。しかしそんな時こそ、インテリアの力を発揮しもっと活用させていくべきだと考える。

また、日本の避難所生活は、物資不足や人間関係により不満や困りごとが絶えない。そこで、どこにでもあるインテリアのカーテンに着目してみた。カーテンを活用することにより災害時でも少しでも快適でまるで自分のおうちにいるような安らぎを感じられるような活用法を見出し社会に寄与したい。

## テーマの目的



肉体的・精神的負担がかかる避難所生活の中で、インテリアの力を発揮することで少しでも安心快適な休息時間を確保し、まるでおうちで暮らしているような生活をしてほしい。カーテンは、教育施設や介護施設、病院に必ずあり、インテリアの中で最も面積が大きく、自在に安易な変化が可能な布でできている。だからこそ、そのカーテン以外の使用方法が見込まれ、活用しやすい具体的な策を提示できるのではないか。布であるからこそ、カーテンは災害時に大いに活躍が見込めるインテリアアイテムであると広く社会にも周知することでインテリアの力による安心感を与えることを目的とする。



## 調査・研究活動の計画内容

- ・避難所生活や復興を知る  
(東日本や熊本、能登での現場の声、台湾との比較)
- ・カーテンが代用できるもの、新たな使い方を調査する
- ・実際にカーテンを作成し、取り外しやすさを追求する。
- ・災害時の心理状況を知り、  
インテリアの寄り添い方を模索する。
- ・教育施設や介護施設、病院のカーテンについて調査する。

## 想定する、調査・研究の成果（成果物、成果活動）とその具体的活用先

有事の時にすぐに使えることが最大の魅力となる。だからこそ、カーテンがあるだけで「何かあってもすぐに外して持っていける」という安心感を与えられる。

布の特性を活かして姿を変え、幅広い世代に適応した環境を生み出す。

住宅や教育施設、福祉施設で防災カーテンとして設置し、日常時は、普段も楽しく使えるような面白いデザインとして楽しみ、有時には取り外し、被災直後や避難所生活、復興などで使用可能となる。

災害が多い日本で、誰もが使いやすく欲しくなるような仕様とする。





## 成果を公開することによる期待される効果

食料や飲料の備蓄や、非常用持ち出しバッグのように、普段の生活ではその活躍は見られないが、災害時などでは力を発揮する存在へ変化する。  
インテリアは、快適な生活時間以外でも暮らしを豊かにできることを周知させるきっかけとなる。

## テーマの目的や結果(成果物、成果活動)が公益性を有する説明

教育施設や福祉施設、病院は避難所として指定され、不特定多数の人が集まり生活を共にする。その避難所ではたくさんの物資を必要とし、日本では不足しているものなどが多くある。そこで、住宅だけではなく、教育施設や福祉施設、病院にまで防災カーテンを設置することで、自宅から持って来られなかった場合でも避難先で活用できる。願わくは、最低でも一部屋ひと組は必ず採用することを法的に義務付けるなど、インテリアを必須事項になるようにしたい。

## メンバー

酒井里奈	愛知淑徳大学学生
堀裕太	同上
秋山英実花	同上
三浦陽光	同上
石埜美紀	同上
(上記学生指導・監督)	
松本佳津	インテリアコーディネーター



---

# 目次

---

- 01 日本の避難所の現状と課題
- 02 デザイン検討
- 03 取り付け方法検討
- 04 生地検討
- 05 制作物について
- 06 活用方法の提案
- 07 学生の考察及び感想
- 08 研究の課題





# 日本の避難所の 現状と課題

---

## 物資・トイレ不足

ダンボールベッド・雑魚寝・車中泊・寝床が硬い→睡眠不足

パーティション→プライベートスペースなし

災害関連死（肉体的・精神的負担が7～9割）

騒音→人の足音が地震に感じる

避難者同士のコミュニティを必要とする声もある

→分け過ぎるのも良くない？

サプライチェーンにより対応に時間がかかる

インスタントハウス

## 自然災害が多い

（台風・豪雨・豪雪・洪水・土砂災害・地震・津波・火山噴火）

普段の近所付き合いが力を発揮する（挨拶・自治会参加）

命のハンカチ

→黄色いハンカチで家族の安全を知らせる（安否確認）

プッシュ型支援





# 取り付け方法検討

カーテンを二枚やそれ以上に分け、災害発生時にすぐに引っ張って取り外せる仕様とする。

防災カーテンとしているが、あくまでもいざという時に必要なアイテムとし、普段の生活に影響がないデザインや仕様であるべきだと考えた。なぜなら、インテリアとして、安心感や落ち着きをもたらす効果が必ず必要だからだ。

カーテンがあるから災害が発生しても安心、しかし常に災害発生に怯えるのではなく快適に暮らせるよう、特にカーテン同士の取り付け方法に力を入れた。

## 1.ファスナー

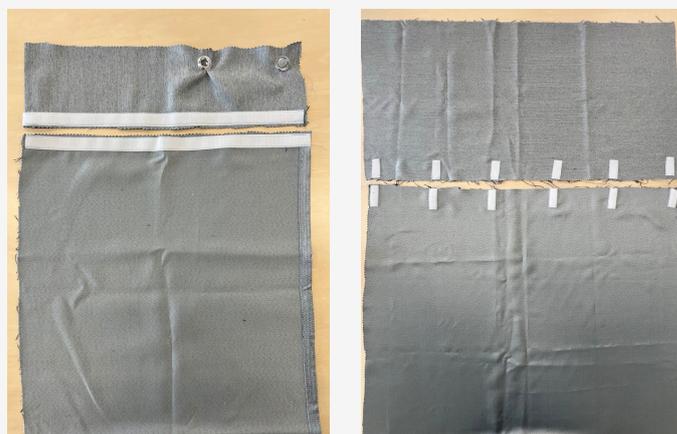


カーテンならではの、美しいドレープを損なう。

## 2.スナップ

接着が強すぎて、いざという時にすぐに取り外せない。

## 3.マジックテープ



長さや幅によって強度が異なる  
W×H=20×50 140mm 間隔で取り付ける

試作を重ねることで、横幅20mm、縦幅50mmのマジックテープを140mm 間隔で取り付けることが最適であると判断した。

細かく分けて取り付けることで、いざという時にすぐに引っ張って取り外すことが可能。また、等間隔にすることで、美しいドレープを損なわず、普段時からインテリアとして生活に馴染む。



# 生地検討



カーテンに使用される様々な生地の素材には、メリットデメリットが存在する。  
それらをインテリアとして、普段時、災害時ともにどのように活用できるかを検討した。

化学合成素材	メリット	デメリット	普段時	災害時
ポリエステル	強い・染色 シワ少ない 手入れしやすい	帯電性 ホコリ 蒸れ	好みのデザインを楽しめる 清潔に保てる	物資の運搬が可能 清潔に保てる
アクリル	柔らかい 薬品・虫 縮み・型崩れ	毛玉・帯電性	温かみある部屋になる 長く使い続けられる	柔らかさが安心感を与える
ナイロン	摩擦・型崩れ 薄い・染色 カビ・虫	帯電性・黄変	長く使い続けられる	物資の運搬が可能 清潔に保てる
レーヨン	品がある 吸湿性・染色 吸水性・発色	縮み・摩擦	美しい空間を生み出す 肌ざわりが良い	自分の部屋にいるような安心感 蒸れにくく快適に過ごせる



自然素材	メリット	デメリット	普段時	災害時
綿 (コットン)	ナチュラル 吸水性 肌触り	シミ・色移り カビ 黄変	肌ざわりが良い ナチュラルな雰囲気空間	落ち着きを与える 蒸れにくく快適に過ごせる
麻 (リネン)	耐水性・耐熱性 吸水性・通気性 肌触り・馴染む	伸び縮み ドレープ少ない シワ	清潔に保てる 風通し良く涼しい	どんな場所でも使用可能 肌ざわり良く安心する
絹 (シルク)	光沢感・手触り 発色 シワ少ない	黄ばみ 虫・カビ 摩擦・伸び縮み	美しい空間を生み出す 好みのデザインを楽しめる	自分の部屋にいるような安心感

---

# 制作物について

---

その部屋で過ごす人物や使用用途、使用頻度により、求められるデザインや生地が異なる。そのため、様々な設置場所や人物像を想定した。

そこから、実際に実寸で製作するカーテンを選択、下記の内、(※)のカーテンを作成した。

製作したカーテンは、木材に取り付けたカーテンレールに下げて比較検討などを行った。

住宅×三世代家族

住宅×小さい子供がいる家族 (※)

住宅×女子大学生ひとり暮らし (※)

住宅×社会人男性ひとり暮らし

住宅×寮生活 (※)

小学校×DVD鑑賞

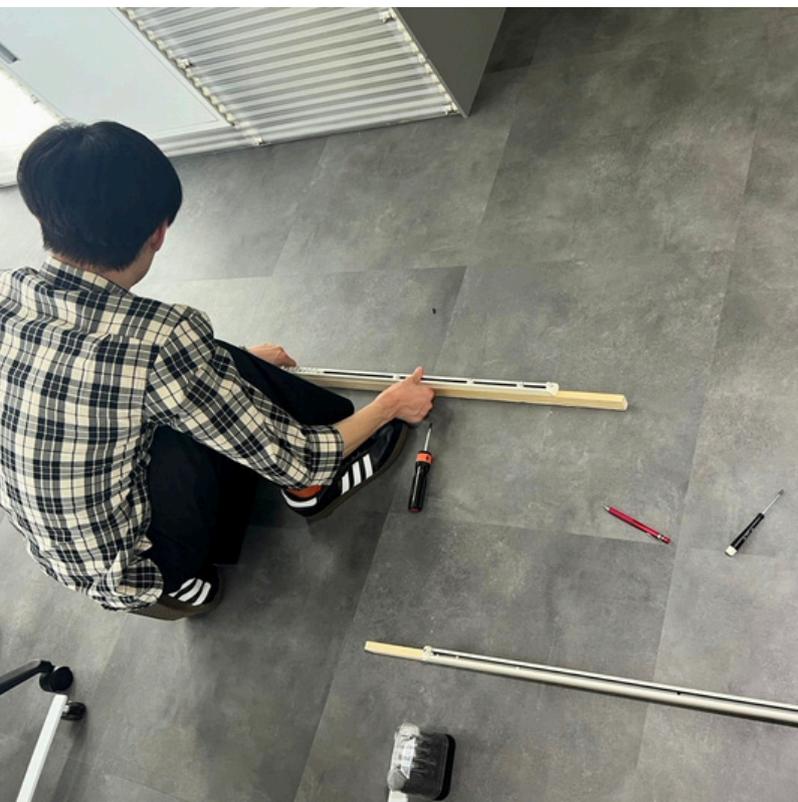
小学校×保健室

小学校×火を扱う部屋 (調理室・理科室)

小学校×職員室

小学校×高学年×シンプル (※)

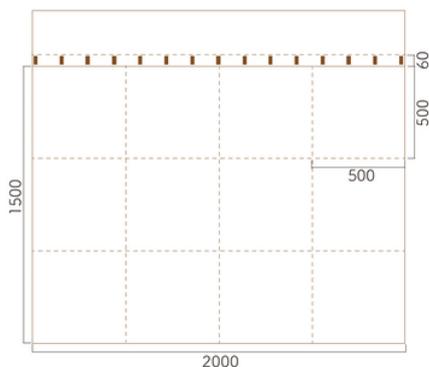
小学校×低学年×派手 (※)



---

# 住宅 × 家族

---



シンコールインテリア株式会社  
AZ2102 アモル  
株式会社フジエテキスタイル  
FA2470 22 01

子どもの健康のためにもいつでも洗濯できて綺麗を保ちやすい構造とした。  
災害用ではなく普段用としてどれだけ使いやすいか、気負わずいられるかが重要と  
考えた。

風呂敷サイズの布を組み合わせて張り合わせた。  
その中に、カーテンのサンプル生地を数箇所を使用。

---

# 住宅 × 女子大学生ひとり暮らし

---



株式会社フジエテキスタイル  
FA2470 WH  
シンコールインテリア株式会社  
ML1392 レスポ  
シンコールインテリア株式会社  
ML1390 レスポ

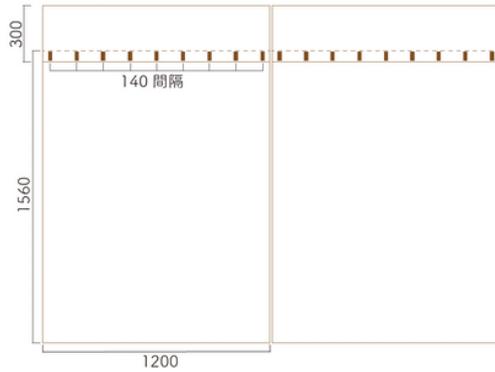
自分の好きな柄で普段の生活いつでも安心でき、それだけでなく自分らしさ大爆発  
で避難所に自分のおうちをつくりだす。

また、軽くて持ち運びも一人で楽々できる生地を選んだ。

---

# 住宅 × 寮生活

---



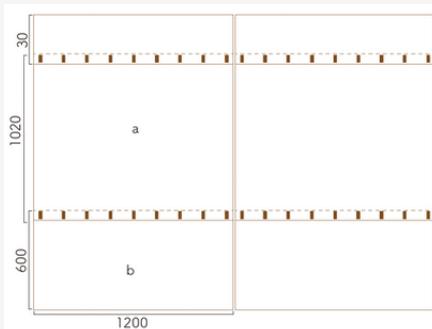
株式会社サンゲツ  
OP3086

色々な人が住むことが想定される寮で、誰にでも馴染んで使いやすいデザインとした。  
ひとり暮らしでもお手入れしやすいポリエステル素材で薄めの生地を使用した。

---

# 小学校 × 高学年 × シンプル

---



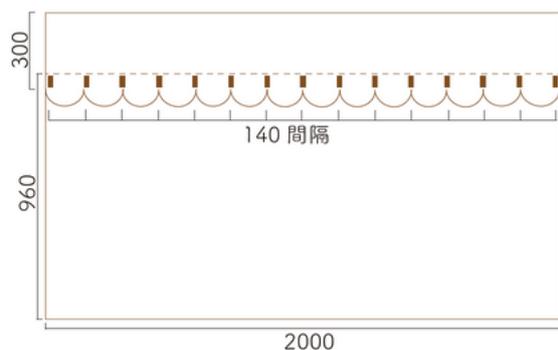
アスワン株式会社  
R0119 AB205361  
シンコールインテリア株式会社  
AZ2105 アモル

誰でも使いやすいデザインかつ、久しぶりに学校に足を踏み入れる大人にも馴染む配色とした。  
教育施設を清潔に保てるよう手入れしやすく、小学生が扱っても問題ない強度を併せ持っている。

---

# 小学校 × 低学年 × 派手

---



株式会社フジエテキスタイル  
PF2570 01 コローレ  
アスワン株式会社  
C1100 ハンヌ オーセンス

小学校という公共施設だからといってシンプルなデザインでなければならないというわけではないのではないかと考え制作した。  
耐久性があるのに肌ざわり良くナチュラルな素材を使用し、柄を取り入れることで避難所として使用される小学校に親しみやすい安心感を加える。





# 活用方法の提案

様々な用途に対応可能なサイズである必要がある。  
避難者がその場に応じて自由に使えるように、活用方法を印刷したスカーフを装飾やタッセルとしてカーテンにつける。



寒さ対策や防災頭巾



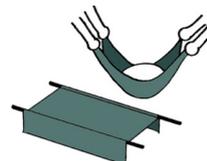
床に敷く



結んでロープに



意思表示のための旗



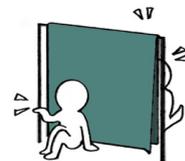
物や人を運ぶ



石などを包みハンマーに



枕や布団など寝具



プライバシー保護の仕切り



抱っこ紐



布団	1200×2000
膝掛け	1200×1200
パーテーション	1000×1800
人を運ぶ（担架）	550×2120
物を運ぶ	800×800
応急処置	500×500

# 学生の考察及び感想



酒井里奈

カーテンの取り付け方法から生地、使用方法やその明記にまで取り組むことで、より現実的に使用される状況を想定して五種類の防災カーテンを作成することができた。しかし、使用した生地の重さにより引っ張られて裾が床に接してしまったり、ドレープが崩れてしまったりした。

ここから、生地の重さや長さなどの検討がより必要であると考えた。また、実際に住宅や小学校などで使用することでより普段時、災害時の双方でインテリアの力を発揮する可能性を見出すことができるだろう。

堀裕太

今回の研究では、災害時にカーテンをどのように取り外し、活用するかを想像しながらデザインを考えました。特に、素材の特徴を理解し、それが災害時に適切に使用できるかを検討する一方で、カーテンは日常生活においても快適に使用されるべきものであるため、そのバランスを取ることの難しさを実感しました。

また、あらゆる場面を想定して従来のインテリアの使われ方を見つめ直すことで、新たな活用方法を発見することができました。この研究を通じて、インテリアには単なる装飾の役割だけでなく、災害時にも貢献できる可能性があり、それを追求することに使命感を感じました。今後も、インテリアの新たな可能性を探りながら、より実用的なデザインについて考えていきたいと思えます。

秋山英実花

今回の研究は、災害時にカーテンはどんな素材やデザインにするべきかや災害時に使える布の活用にはどんな方法があるのかなど、新たな視点でインテリアについて考えることができ、学ぶことも多く良い経験でした。

今回の研究を通して、災害時のカーテンの実用性がより明瞭になり、様々なインテリアが災害時に役立つようになる未来も近いのではないかと感じました。また他のインテリアにも、災害時の活用方法はないか今回のように考えてみたいと思いました。

三浦陽光

今回の研究では災害時でのカーテンの実用性とデザインの重要さを考えることができ多様な可能性を考えさせられました。

災害時での実用性では素材により用途が変わる点に興味深く、デザイン面では日常生活でも使用できるデザインとして考えるのが難しく感じました。

この研究をして、インテリアの新しい防災機能の開発が進む可能性があると感じました。

カーテンという身近なものに着目することで、日常の中に防災を取り入れるヒントになり、とても興味深いと思いました。

石埜美姫

災害時において家具やインテリアは、被害の原因になりやすいものだと思っていました。しかし、カーテンという身近なものを、いつ起こるかかわからない災害時に使用できるようにすることでより災害への理解と対策意識を深めることができました。

布と一概に言えるものでも様々な用途や素材があり、それぞれに必要な機能があることで、カーテンへの使用にも懸念点や利点が伴うことが難しいところでした。

素材や用途による差を見極め、カーテンに使用する良さをしっかりと引きだせることも今回の研究の要であったと思いました。

カーテンだけに留まらず、インテリアの災害時へのアプローチをこれからも考えていきたいです。

2024年度 愛知淑徳大学  
創造表現学部 創造表現学科  
建築・インテリアデザイン専攻  
卒業プロジェクト  
制作部門最終審査 選出、佳作受賞

日本インテリア学会 主催  
第31回卒業作品展 選出



# 研究の課題

## 愛知淑徳大学

創造表現学部

建築インテリアデザイン専攻

教授

## 松本佳津

### インテリアにできること・・・

インテリアにはチカラがある、インテリアには可能性がある、と常日頃伝えてきたが未曾有の災害を目の当たりにした際、インテリアの無力さに悔しさが溢れた。なぜなら、私にとってインテリアこそ人生に寄り添うかけがえのない大きな相棒だと思っているからだ。住まいは、人を包み込み守るべきものでありインテリアは人に一番近い存在である。ならば、きっと何かできるはず、というのがこの研究の発端である。

まずはインテリアの中で、災害に対し何が有効となり得るかを精査することから始めた。カーテンに目をつけたのは、

- ・窓があるところにはどこにでもある
- ・作りがシンプルである
- ・布での構成は布活用事例が使える
- ・フレキシブルな使用方法の構築に期待
- ・視覚に常に入るインテリアエレメント

といった理由からである。現状の調査を進めるとこれまで、災害時のさまざまな取り組みや工夫には大きな問題があった。それは、災害時以外ではあまり活用されないことであったり、災害を想起させるものは普段の生活には不似合いでだんだんと隅に追いやられてしまう、といった普段と災害時の大きなギャップのようなものである。考えてみれば、大きな災害に遭遇してしまうのは、長い人生の中でも頻繁にあるわけではない。何より普段の生活のほうが格段に時間が長いのは事実なので普段と災害時の両立バランス、そこにインテリアの可能性を見出すことができると考えた。つまり普段はインテリアを楽しむことができるが、いざとなったときさまざまなことに使える、というものである。

さらに現状のカーテンの問題もその思いを後押しした。現状、カーテンは

- ・建築コストの関係で最後になりがちなため十分な予算を取れないにも関わらず空間のクオリティを高めるインテリアでは大きな要素
- ・もともと日本人にとっては建具発想なので洗濯等がおろそかでアレルギーの原因にもなっている

・断熱が叫ばれている今、カーテンの見直し時期

といったことである。

### 今後の課題

1年間の成果は、報告にある通りであるが、今後の課題としては以下の5点に関連することを具体的に考えていくことだと思っている。

- ①大きさのバリエーション
- ②デザインバリエーション
- ③接続部の検討
- ④重さ厚みの検討
- ⑤タッセルの開発

それらを踏まえ以下の観点で今後の課題について考察したい。

#### 場所の限定

本研究を踏まえさらにピンポイントな場所を限定する。限定することにより汎用性の高い大きさや素材の選定が可能であろう。また見た目の美しさと上下の接続から、本研究と同様ウェブスタイルを基本に考える。

例) 小学校の窓(腰窓)

例) 住宅右リビングの窓(掃き出し窓)

これらを細かな設定とし構築している。

#### デザインのパターン化の構築

カーテンを2分割にすることで買い替え需要の喚起が期待できる。

- ・季節や気分ごとの取り替え
- ・機能面の違いによる付け替え
- ・洗濯の容易さ

といった問題点の解決へと導くものである。

カーテンを上部下部に分けることでのデザインバリエーションとしては10×10で100通りをまずマトリックスとして視覚化する。

それらには機能・カラースキーム・インテリアテイストといった意匠的な本来の役割も加える。

タッセルのデザインによる活用も引き続き検討する。

#### テクノロジーの活用

美しいウェブを出すために、接続部の検討をさらに進める。

まだ構想段階ではあるが布地にさらなる機能を付加したい。またレールにも何らかの機能も組み込めないかと考えている。ベースとなるのは環境負荷のかからない状況と今ある資源の有効活用である。

：食料となり得ないか。

・発電機能の付加を期待できないか。

・自然に戻る素材、人に優しい素材で考えられないか。

などである。

引き続き研究および具体的な開発を、公表しながら学生とともに続けていきたい。



## 公益社団法人インテリア産業協会研究助成報告 2024-2025

---

協力 レール提供 トーソー株式会社  
縫製協力 (有)アートソーイングたなべ  
ありがとうございました。